

感謝の伝え方

日本で様々な経験があったが、剣道部に入ったのが一番影響を受けた。子供の頃、全くスポーツをしなかった。私は教師を恐れていたため、スポーツのコーチも恐れていた。その理由で、一人でできる趣味しかなかったが、留学した時友達を作りたかったので、スポーツ部が最適だと思った。思った通り剣道部を通じて、友達でき、恐怖にも立ち向かった。日本では「剣道の先生」は普通は怖くて、厳しいイメージがあるが、この師範が非常に優しい。厳しい時がなかったわけではないが、批判をするときでも師範は決して怒鳴らなかった。それに稽古や試合の後、失敗しても、負けても、師範はいつも褒められることを探し、良い言葉を言った。

留学する前に、教師からの批判が非常に嫌だった。教師に私はバカと思われていることにすごく悩んでいたため、批判をもらった時心配になりがちだった。レポートやテストの採点を見ないぐらい心配だ。剣道を始めた時も同じ悩みがあった。「私が素振りの間違いをしたら、師範に絶対に弱くて、バカと思われる」と何回も思ったが、徐々にその考え方が変わった。師範の指導のおかげで、批判を避けることに集中するのをやめ、剣道を上達することに集中し始めた。剣道を上達しながら、生活でも自信も持つようになった。批判は実はそんなに悪くないと気づいたので、普通出来ないことができるようになった。

師範にどうやって感謝を言い表す？留学した時、何回も「ありがとう」を言った。大学の先生に「ありがとうございました」、友達に「ありがと」、剣道部員に「あざーっす」。様々な「ありがとう」を言った。稽古の終わりに、師範に向け、正座で座り、頭を下げ、「ありがとうございました」を言う表し方もあり、お土産として日本酒をあげる感謝の表し方もある。合宿の最後の日、それにカナダに帰る前に師範に会う最後の機会の時、師範に「ありがとうございました」と言った。いつも通り「ありがとうございました」と言ったが、その言葉が物足りなかった。その一年間、週に4回「ありがとうございました」と言ったので、最後の感謝の言葉はさらにいい言葉を使うべきだと思ったが、言うべき言葉を思いつかなかった。カナダに帰ってきた後でも、師範にどうお礼を言うべきかを考えていた。ありがとうと言う代わりに、剣道を続け、師範とまた稽古し、進捗を表示するのが良いだろうか。

野口師範とまた稽古するように。

